

第 14 回新しい資本主義実現会議 意見書

2023 年 2 月 15 日

株式会社経営共創基盤 (IGPI)

IGPI グループ会長 富山和彦

- ・ 産業も事業も仕事も大いなる変容を続け多様化が進む時代
- ・ 働き方も生き方も変容と多様化が進む時代
- ・ こんな時代にどうすれば経済的にも精神的にも豊かで愉快地に生きていける経済社会を作れるか？
- ・ 日本型メンバーシップ雇用でこれが可能になる余地はどんどん減少（戦後に形成され、一時、極めて有効かつ広範に機能したが・・・）
- ・ 「メンバーシップ」の名の通り、一定の変容幅・速度で同質的な「メンバー」で長期的にうまく行く産業と、そこでうまくやれる標準的(?)な人々が大多数であることがうまく機能する前提だが、それはマイナー空間にならざるを得ない⇒野球から速攻でサッカーに変わる game change、突然ストリートスポーツも現れる多種目化にはついていけない
- ・ マルチタスク≡メンバーシップ論も虚構（タスク≡ジョブの定義なくしてマルチタスクは機能しないし、ジョブ間の横断協力はそれを評価項目に入ればいいだけの話⇒だから日本企業は海外でも高品質の自動車を作れる）
- ・ ジョブ型（プロフェッショナル型）なくしてリスクリングなし
- ・ ジョブ型なくして情報非対称な外部労働市場で必須となるスキルと能力のシグナル（客観的証明）なし
- ・ ジョブ型なくして賃金上昇的な外部労働市場なし

- ・ジョブ型なくして破壊的産業変容の時代の雇用保障なし
 - ・ジョブ型なくして有用人材のリテンションなし
 - ・ジョブ型なくして労働市場のダッシュボードなく EBPM な労働政策無し
 - ・ジョブ型なくして生産性の向上も賃金上昇もなし
 - ・何をリスクリングするかは個人が選ぶべき（既存事業バイアスがかかる企業は産業変容に対して宿命的に後手を踏む）
 - ・個人の側の選択として、会社に留まるか転職するかについて中立的な諸制度（リスクリング、退職金、税制、不当解雇救済制度・・・）であるべき
 - ・スキルも仕事も会社も個人の選択肢が増えるから企業は必死にリテンション投資を行い賃金を上げる
- ⇒ジョブ型・プロフェッショナル型労働市場システムへのシフトを急ぎましょう！